

平成 23 年 10 月 31 日

十和田市長 小山田 久 様

十和田市事務事業評価市民検討委員会

委員長 伊藤 伸彦



平成 23 年度十和田市事務事業評価外部評価について（報告）

十和田市事務事業評価市民検討委員会は、平成 23 年度の事務事業評価対象事業の中で、外部評価の対象となった 3 事業について担当課から説明を求め、第三者の視点から評価・検証を行いました。

その結果を別紙のとおり報告します。

貴職におかれましては、この報告書の内容を行政改革の観点から十分に検討し、今後の事務事業の改善に活用されることを期待します。

平成 23 年度
十和田市事務事業評価外部評価報告書

平成 23 年 10 月

十和田市事務事業評価市民検討委員会

目 次

1. 十和田市事務事業評価の概要	p1
2. 市民検討委員会の役割	p1
3. 評価対象	p1
4. 評価方法	p2
5. 評価結果	p3
(1) 農畜産物等総合販売推進事業	
(2) 商店街機能強化事業	
(3) 市民参加による緑化の推進（十和田市花壇コンクール）	
6. 横断的課題.....	p4
7. 付帯事項	p4

(参考資料)

- ・平成 23 年度 十和田市事務事業評価市民検討委員会 名簿
- ・平成 23 年度 十和田市事務事業評価内部評価対象事業一覧

1. 十和田市事務事業評価の概要

十和田市では、十和田市総合計画に掲げる「感動・創造都市～人が輝き 自然が輝き まちの個性が輝く理想郷～」の実現に向けて各種事業を展開している。同時に、厳しい財政状況の中で地域社会の健全な発展を目指し、簡素で効率的な行政運営を図るため、行政改革に努め、事務事業評価を実施している。

十和田市が実施する事務事業評価は、平成 19 年度及び平成 22 年度の試行を踏まえ、平成 23 年度から外部評価の導入も含めた事務事業評価を実施し、評価の客観性、信頼性及び透明性の向上と成果重視の市政運営を図ることとしている。

1 事務事業評価を実施することにより、事業のPDCAサイクルを確立し、①職員の事務事業に対する意識向上 ②効率的で質の高い行政 ③市民の視点に立った成果重視の行政 ④市民への説明責任の徹底を図る。

2 平成22年度に試行を実施。平成23年度(今年度)が本格導入初年度。

評価対象事務

十和田市の将来像「感動・創造都市～人が輝き 自然が輝き まちの個性が輝く理想郷」を実現のため、「選択と集中」の視点のもと市として重点的に取り組む事業を取りまとめた「第1次十和田市総合計画 第2期実施計画」掲載事業(内部管理事務、定型事務等を除く。)を対象とし、効果的かつ効率的な施策展開を図る。

外部評価について

目的: 第三者の視点で事務事業を点検・検証し、評価内容の客観性及び信頼性を確保し、成果重視の市政運営を図る。

対象事務: 内部評価を行った事務事業の中から、市の裁量が限定されている法定事務や内部管理事務等を除き、第三者の視点から評価を行うことが有意義であると考えられる事業を対象とする。

評価結果の取扱: 市民検討委員会会議の結果を踏まえ、事業担当部署において必要な見直しを行う。



図. 十和田市事務事業評価の概要 (第 1 回会議資料より抜粋)

2. 市民検討委員会の役割

十和田市事務事業評価市民検討委員会は、担当課において実施した内部評価について第三者の視点から評価・検証を行い、評価対象事業の今後の方向性について検討を行った。

3. 評価対象

平成 23 年度は、十和田市総合計画実施計画に掲載されている事務事業の中で、45 の事務事業について担当課による評価が行われた。

その中で、第三者の視点から評価を行うことが有意義と考えられる下記の事務事業について外部評価を行った。

【外部評価対象事務事業】

- (1) 農畜産物等総合販売推進事業 (農業政策課)
- (2) 商店街機能強化事業 (商工労政課)
- (3) 市民参加による緑化の推進 (十和田市花壇コンクール) (都市整備建築課)

4. 評価方法

事前に配布された評価資料に基づき、検証項目ごとに各委員の意見を集約し、論点を整理した上で、担当課から説明を求め、質疑応答を行った。

その上で各委員による判定を行い、最も多かった意見を委員会としての評価結果とした。

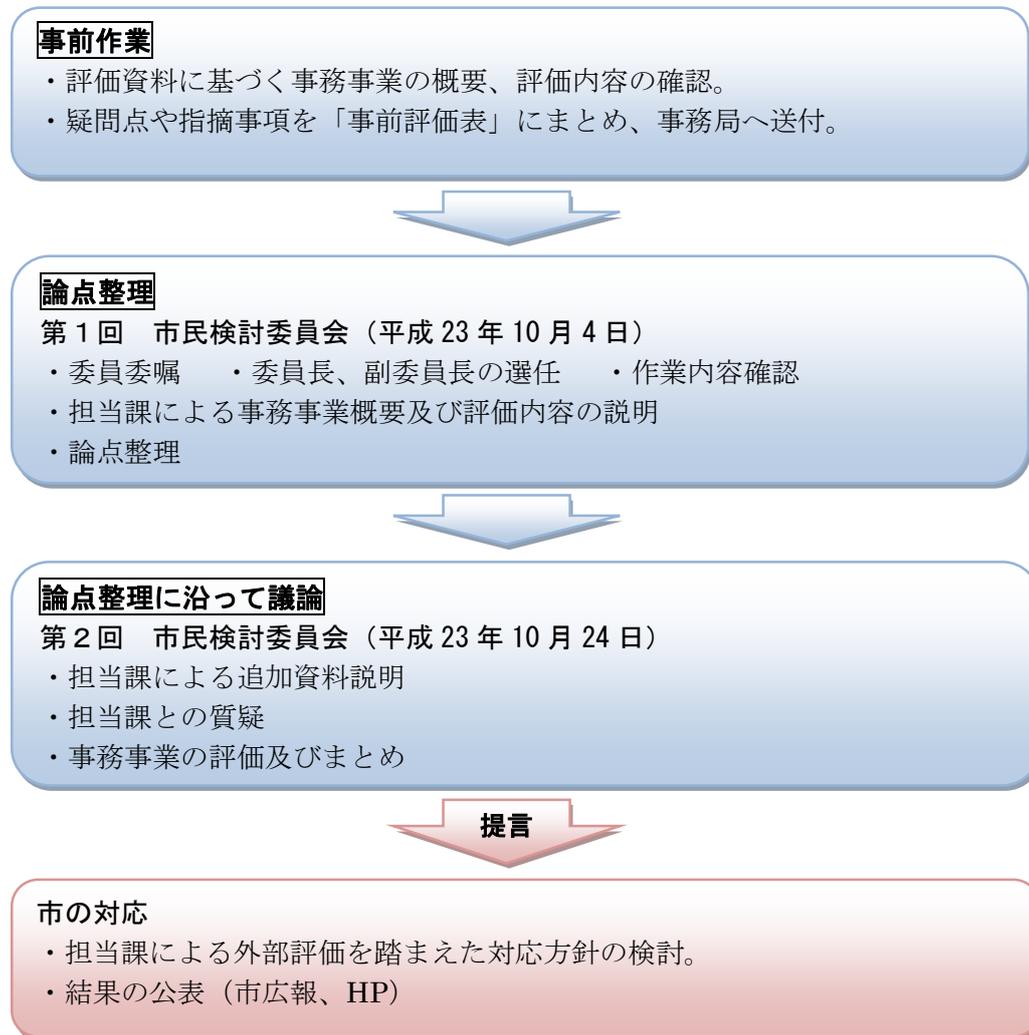


図. 十和田市事務事業評価作業フロー（第1回会議資料より抜粋）

表. 各事務事業についての論点整理（第1回市民検討委員会会議結果より）

事務事業名	論点
農畜産物等総合販売推進事業	① 他事業・他部門との連携について ② 農畜産物販売促進の有効性・効率性を高める方策について
商店街機能強化事業	① 情報誌発行事業のあり方について ② イベント事業のあり方について
市民参加による緑化の推進	① これまでの事業実績の総括について ② オープンガーデンとわだとの連携等を踏まえた今後の事業のあり方について

5. 評価結果

(1) 農畜産物等総合販売推進事業

【事務事業の方向性】

有効性を改善して継続し、さらに重点化を図る

【各委員のコメント】

論点① 他事業・他部門との連携について

- 事業を効果的・効率的に展開する為、他部門（観光商工部門）との連携強化を図って取組んでいただきたい。（既存部門で取組推進が困難である場合は、横断的なプロジェクトチームの設置という方法もあるのではないか。）
- 連携強化のためには、市役所の各セクション間での情報共有・コミュニケーションがまず大切。
- 生産者に物を作るだけでなく販売もさせるようなシステムを教えながら進めてはどうか。

論点② 農畜産物販売促進の有効性・効率性を高める方策について

- PR 不足のように感じているので大いに PR して頂きたい。
例えば、
 - ・十和田産物を役所のロビーや建設予定の複合商業施設など市民の目に触れる場所に置き、浸透させるような仕掛けが必要ではないか。
 - ・秋まつりや駒マラソン大会のような遠方から多くの方が集まる機会を捉えた PR を行ってみてはどうか。

(2) 商店街機能強化事業

【事務事業の方向性】

有効性を改善して継続

【各委員のコメント】

論点① 情報誌発行事業のあり方について

- 情報誌を統合して作成することはできないか。（例えば、「ゆるりら、十和田（観光ガイドブック）」、「ゆるりら、十和田（観光ガイドマップ）」、「とわだおみやげぶっさん」、「とわだまるごと Food Drink Stay」を1冊にする等）
- 情報誌については、継続出来るように工夫してほしい。
 - ・市役所の一角にパンフレットが全て揃えてあると便利。
 - ・花見シーズンの際に、市役所の5階ロビーを一般向けに開放しているが、観光客が集まる季節や場所へパンフレットを置く等の工夫の仕方もある。
 - ・北里大学で開催される会議には全国から関係者が集まる。このように、他県から多くの人がある会議や催し物の際に、郵送資料に加えてもらうなどして、情報誌を配布すると効果的ではないだろうか。

論点② イベント事業のあり方について

- イベントを開催したら、各個店も売上げに繋げるように努力をしてほしい。
- 追跡調査を行うことによる改善が必要。

その他

- 情報誌もイベントも沢山あるが、それぞれの連携が非常に悪い。部を越えた視点での調整をすべき。
- イベントや情報誌の効果の判定について、担当課による調査をすべき。

(3) 市民参加による緑化の推進（十和田市花壇コンクール）

【事務事業の方向性】

事務事業の統廃合を図る

【各委員のコメント】

論点① これまでの事業実績の総括について

- 花壇コンクールの役目は評価するが、歪も生じてきているので休止した方が良い。
- 形を変えて意義を深めてはどうか。

論点② オープンガーデンとわだとの連携等を踏まえた今後の事業のあり方について

- 緑化まつりや、花いっぱい運動等との連携も考えて頂きたい。
- 町内会連合会との連携や、官庁街の花壇づくり等、新しい形を探してほしい。緑と花をいっぱいにする活動自体はとても重要である。
- 花壇コンクールは廃止し、オープンガーデンとわだ事業を発展させてはどうか。
- 長年継続してきた事業ではあるが、これまでの活動の市民への啓発は浸透したものであると思われる。オープンガーデンとわだの推進が良いものであると思われる。費用対効果から見ても完了で良いのではないか。

6. 横断的課題

評価作業全体を通して、以下の課題が挙げられた。外部評価対象事業のみならず、全事業横断的にこの視点を活用した見直しを行うべきである。

(1) 他事業・他部門との関係整理について

他部門と関連性を有する又は重複している事務事業が見られる。事務事業の重複排除及び効率的・効果的な展開のため、事業の重点化や部門間の効率的な連携方策等を図るべきである。(例えば、次のような方法が考えられる。①部門間での役割分担について議論する場を設け連携方策について検討・整理する、②横断的プロジェクトチームの設置③組織体制の見直し など)

(2) 補助事業の実施のあり方について

十和田市から各種団体等へ補助し、事業を実施する際には、その結果の報告を受けるだけではなく、担当部門によるしっかりとした効果の検証が必要である。(例えば、成果等について追跡調査を行った結果から、今後の対応について検討する必要があるものと考えられる。追跡調査の実施については、満足度調査等、アンケートの取り方にも工夫を要する。)

7. 付帯事項

(1) 次年度以降の市民検討委員会の実施方法について

- 評価対象事務事業を当委員会においても一部選定できるようにしたい。
- もう少し準備期間をとって、議論の内容を深められることが望ましい。

(2) 行政改革と事務事業評価の関係について

- 行政改革と事務事業評価について、両者の関係整理・連携強化が必要ではないか。

参考資料 1

平成 23 年度 十和田市事務事業評価市民検討委員会 名簿

委員長 伊藤伸彦

副委員長 小林博子

委員 上野東星

委員 櫻田一雅

委員 櫻田努

委員 築田明博

参考資料 2

平成23年度 十和田市 事務事業評価 内部評価対象事業 一覧

No.	市総合計画 実施計画No.	事業名	担当課等名
1	85	消防団活動の基盤整備	総務課
2	87	消防水利の整備	総務課
3	156	職員人材育成実施計画の推進	職員課
4	17	予約式乗合タクシーの運行	企画調整課
5	160	税の徴収対策	収納課
6	64	国民健康保険事業(レセプト点検業務)	国保年金課
7	91	防犯灯設置及び街路灯電気料等助成	生活環境課
8	93	消費生活教育・啓発活動と消費生活相談	生活環境課
9	92	地域防犯活動への支援	生活環境課
10	84	母子家庭及び父子家庭に対する支援事業	福祉課
11	69	特別保育事業	福祉課
12	72	放課後児童健全育成事業(仲よし会)	福祉課
13	78	老人クラブ活動支援	高齢介護課
14	81	地域自立生活支援事業	高齢介護課
15	58	保健事業	健康推進課
16	61	十和田湖診療所整備の推進	健康推進課
17	70	妊婦委託健康診査事業	健康推進課
18	95	農畜産物等総合販売推進事業	農業政策課
19	108	資源の回復	農業政策課
20	99	循環型農業の推進	農業政策課
21	103	十和田市高齢者等肉用牛導入事業	畜産農地課
22	114	エコツーリズムの推進	観光推進課
23	153	民間団体の国際交流活動支援	観光推進課
24	148	新渡戸友好都市交流委員会への支援	観光推進課
25	126	中心市街地活性化事業	商工労政課
26	134	高齢者就業機会確保事業	商工労政課
27	123	商店街機能強化事業	商工労政課
28	119	アーツ・トワダの推進ーミュージアム・イベントの実施	現代美術館
29	16	道路の整備	土木課
30	7	市民参加による緑化の推進	都市整備建築課
31	6	公園遊具の安全点検	都市整備建築課
32	8	上水道第7次拡張事業	水道課
33	9	下水道の整備	下水道課
34	37	木造老朽校舎の改築	教育総務課
35	41	学校図書の充実	教育総務課
36	150	外国青年招致事業	指導課
37	151	国際教育支援員事業	指導課
38	57	スポーツいきいき健康づくり事業	スポーツ青少年課
39	27	北里大学公開講座	生涯学習課
40	50	市民文化祭支援、文化団体への補助金交付	生涯学習課
41	51	芸術文化鑑賞機会の提供	生涯学習課
42	29	十和田市民大学講座	中央公民館
43	23	地域活動の推進	南公民館
44	22	ピオトップ事業活動支援	東公民館
45	33	公民館講座の推進	十和田湖公民館